

公益財団法人大阪府国際交流財団

事業名	高等教育機関留学生担当者防災ワークショップ			
実施期間	2012年9月14日(金)			
場 所	大阪府堺留学生会館オリオン寮			
参加者	外国人留学生	地域住民・企業等	大学関係者	合計
	名	名	21 名	21 名

<実施内容>

災害時の留学生支援体制を考えるため、府内の高等教育機関留学生担当者にお集まりいただき、東日本大震災時に留学生支援に取り組まれた、福島大学 国際交流センター 特任専門員のマクマイケル・ウィリアム氏を講師にお招きし、直接、体験談をお聞きし、そののち、府内の留学生支援の現状や課題について話し合うワークショップを去る9月14日(金)大阪府堺留学生会館において開催いたしました。当日は、大学や専修学校の担当者の方々を初め、国際教育関係機関の方、行政や国際交流団体等幅広い分野の方々が集まってくださいました。

講師からは、震災当時の体験談を映像を駆使し、大変具体的に分かりやすくお話しいただきました。福島大学の留学生数は178名で、国際交流会館(留学生専用宿舎)に50名程度が滞在していたが、震災直後、市内部屋を借りている留学生も地域の避難所に行くことなく情報を求め会館に集まって来て雑魚寝状態であった。頼れる先は大学しか無かったようである。安否確認は教員人海戦術で留学生178名の確認に2週間要したこと。その際、大学生協との連携が有効であったこと。放射能の関係で7割以上留学生が国外へ避難し、最後は入国管理事務所の出国情報で確認したことなど、当時の生々しい体験の具体的な話があり、留学生からはPCメールアドレスを登録させる必要がある。フェイスブックやツイッターが情報発信や収集に有効であるなどの経験を踏まえた課題提起もあり、参加者からは大変有意義な話が聞けたと好評でした。

後半の意見交換会では、参加者が3グループに分かれ、震災発生後1週間以内にまず対応すべき項目は何かを各自4項目書き出し、それをテーマにグループディスカッションをしてもらいました。幅広い分野の方々が参加されていたことから、様々な視点からの意見を聞くことができ、広い視野での意見交換できたこと好評でした。

全体としても講演とディスカッションの組み合わせが良かったとの評価をいただきました。



講師のマクマイケル ウィリアム氏の講演を熱心に聴く受講者



災害時の留学生支援についての意見交換とワークショップ

<参加者からのコメント>

〇〇さん

留学生用の避難訓練を留学生のイベントの一つに組み入れて実施したいと思います。

〇〇さん

福島大学での実際の災害時の対応をお聞きすることができ、非常に参考になりました。また、ワークショップでは他大学や行政機関からの新たな情報も聞けたので、有意義な時間でした。